

# 健康

よもやま話



股関節（下肢の付根の関節）が痛む場合、最も多いのは、関節の表面を覆う関節軟骨が薄くなった、なくなつた状況です。関節はその擦れ合う表面を軟骨が覆っています。この軟骨には神経が来ていないので、擦れ合つても痛くありません。この軟骨が薄くなつたりなくなつてしまつと、その下の神経を含む骨への影響（ストレス）が大きくなり痛みを生じます。軟骨が薄くなりなくなる病氣

## 股関節の痛みを軽減

### 股関節の発達不足(形成不全)による 変形性股関節症に対する 寛骨臼回転骨切り術

諏訪赤十字病院 第1 整形外科

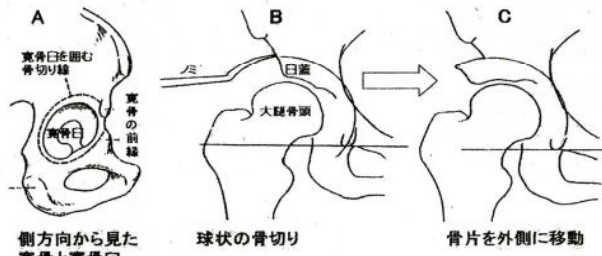
小林千益 部長



の大多数（7〜9割）を占めるのが変形性股関節症です。変形性股関節症の原因は、外国人と日本人で差があります。外国では原因が不明のものが多いのに対し、日本では股関節の発達不足（形成不全）によるものが大多数（3/4程度）を占めます。

股関節は、骨盤側の寛骨（図のA、骨盤の左右の大きく広い骨です）と大腿骨をつなぐ関節です。寛骨のソケットをなす部分を寛骨臼（図のA）と呼び、大腿骨側のボール状の部分を大腿骨頭（図のB）と呼びます。寛骨臼の上（頭側）の部分を臼蓋と呼びます。正常では臼蓋が骨頭の3/4以上をおおっています。股関節の発達が不十分で、臼蓋による骨頭のかぶりが不足した場合、接触面積が少なくなり、ストレス（単位面積あ

股関節の発達（形成）不足による変形性股関節症に対する寛骨臼回転骨切り術



たり受ける力、圧が増し、軟骨が擦り減り変形性股関節症になりやすいくことが分っています（形成不全

全性股関節症と呼びます）。

股関節の形成不全を、骨を切つて治す手術が骨切り術です。骨盤側の発達不足が主ですので、骨盤側の骨切り術を行ない、それでも矯正が不足する場合は大腿骨の骨切りも追加します。骨盤側の骨切り術の代表が、寛骨臼回転骨切り術です。（図のB）のように、臼蓋による骨頭の被覆が3/4以下の場合、変形性股関節症が進行する可能性が高いので、関節痛を軽減し病気の進行を抑えるためにこの手術を行います。発育不全が強く臼蓋による骨頭のかぶりが少ないほど、より早い年齢で股関節症を生じることがわかってきます。骨切り術を行わずに、股関節症が末期まで進行するのを待って、歩行や日常動作で激痛を生じるようになってから人工股関節置換術を行う選択もあります。しかし、股関節の形成不全が強く、人工股関節置換術が比較的早期の青壮年期

に必要なことが見込まれる場合は、その時期を遅らせ、できればそれを避ける目的で、骨切り術を行います。

寛骨臼回転骨切り術では、寛骨臼を球状に切り、外方向に回転し、臼蓋を外に移動させ、骨頭の被覆を増し、関節軟骨の接触面積をふやし、圧を下げます（図C）。形成不全の股関節では、臼蓋が傾斜し、力学的に不利なストレスを受け、痛みを生じます（図のB）。この手術によって、臼蓋が水平化（図のC）することで、力学的に有利な関節となり、接触面積の増加によるストレスの軽減もあり、関節痛が軽減し、病気の進行の予防効果が得られます。なお、この手術は病気が進んで関節軟骨がなくなつてしまつてからではできない手術です。軟骨が残っている状態で行う手術ですので、痛みが比較的軽い方にも、病気の進行を予防する目的でこの手術を行っています。

## 日赤通信

平成20年7月6日

長野日報掲載（許可転載）。

健康よもやま話より